

平成26年度

運営に関する計画・自己評価
[最終評価]

大阪市立夕陽丘中学校

平成26年度2月

平成26年度 教育指導の計画

[学校経営の重点]

「生きる力」を育む、感動ある教育活動を推進し、思いやりあふれる学校をめざす。

重点目標

元気アップ地域本部と連携して、生徒の道德心、社会性をはぐくむ取り組みを進める。

《具体的方策》

1. 基礎的・基本的な内容の確実な定着と、生徒の活発な意見をもとにした学習活動を充実し、自ら考え、意欲的に解決する力を育む。
2. 豊かな体験的活動を通して、個性を尊重し、互いに支えあう集団の育成を図り、思いやる心や感動する心を育む。
3. 自らの健康や体力に関心をもち、健康でたくましい心身を養い、自律的な生活習慣や態度を育む。
4. 今日的課題に対応する教育を充実させ、自らの判断で、生きるべき道を選択し、決定するとともに、社会の変化に的確に対応できる力を育む。
5. 地域・保護者の学校支援体制を構築し、家庭や地域の教育力を活かした教育活動を進めるなかで、地域行事への積極的な参加とともに、地域の一員である自覚と感謝する心を育む。

《努力目標》

何ごとも「心」をこめて行動しよう。

1. 気持ちよく挨拶のできる生徒
2. 心をこめて人の話の聞ける生徒
3. ルールやマナーを守る生徒
4. 自らすすんで掃除をする生徒

1 学校運営の中期目標

現状と課題**現状**

- ・「感動と心」をキーワードとし、教育目標を『生きる力』を育み、感動ある教育活動を推進し、思いやりあふれる学校をめざす。」と設定して、教育活動を展開している。
- ・生徒は学習に対する意欲をもち「何事にも心を込めて行動する」を努力目標として、教育活動の取り組みを進めている。学習面では、全国の学力・学習状況調査をみる限りにおいては、全国平均と同程度の学力が備わっており、意欲的に学習活動を進めている。また、基本的生活習慣が、身につけている生徒がほとんどであるが、一部、生活指導上の課題のある生徒も現存する。
- ・学校協議会においては、教員が、熱心に学習指導に取り組んでいる点と多様な課題に教職員が協働して取り組んでいる点が、評価されている。

課題

- ・学力の二極化が、課題としてあげられる。習熟度授業や少人数授業を活用することや、生徒間で話し合う活動を行うなどの工夫を行い、より良い授業実践を展開し、自ら学習できる態度を育成する。
- ・学校元気アップ事業をより積極的に活用して地域との連携をさらに深めていく。
- ・体調面や時間管理等について自ら考え、行動できるそして、自己管理のできる生徒の育成に努める。
- ・学習面や生活指導面において、9年間のスパンで子どもを育てるという観点で、小中連携を推進していく。

中期目標**【視点 学力の向上】**

- 平成28年度の全国学力・学習状況調査における「普通の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を40%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- 平成27年度までに全教科において小学校との教科間連携を実施する。 (マネジメント改革関連)
- 平成27年度には、テスト前学習に参加する生徒の割合を15%にする。 (カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 毎年度末の校内調査において遅刻生徒の数を、毎年、前年度より減少させる。 (カリキュラム改革関連)
- 平成28年度の全国学力・学習状況調査における「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を95%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- 平成28年度の全国学力・学習状況調査における「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を35%以上にする。 (ガバナンス改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- 平成27年度末の校内アンケートにおける「清掃活動を積極的に取り組んでいる。」の項目について、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- 平成27年度末の校内アンケートにおける「体調面での自己管理ができています」の項目について、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- 検診で分かった症状の受診率100%をめざす。 (カリキュラム改革関連)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- ①言語活動の取り組みを学校全体で取り入れ、平成 27 年度の全国学力・学習状況調査における「普段の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 38%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ②平成 26 年度末には、校区小学校と校種や教科を越えた連携を図り、指導法について研修し、相互の授業参観を実施する。 (マネジメント改革関連)
- ③テスト前学習に参加する生徒の数を前年度より 2%あげる。 (カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ①平成 26 年度末の校内調査において遅刻生徒の数を前年度より減少させる。 (カリキュラム改革関連)
- ②平成 27 年度の全国学力・学習状況調査における「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 93%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ③平成 27 年度の全国学力・学習状況調査における「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 33%以上にする。 (ガバナンス改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- ①平成 26 年度末の校内アンケートにおける「清掃活動を積極的に取り組んでいる。」の項目について、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答える生徒の割合を 83%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ②平成 26 年度末の校内アンケートにおける「体調面での自己管理ができています」の項目について、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答える生徒の割合を 77%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ③検診で分かった症状の受診率 85%をめざす。 (カリキュラム改革関連)

3 本年度の自己評価結果の総括

- ・生徒の学力の向上は、教員の授業力の向上と考え、今年度も、授業改善に取り組んだ。校内授業研究と研究協議は、全教員が参加し充実しており、若手教員の育成にもなっている。学び続ける教員サポート事業で、全教員が、指導案のある授業研究を実施した。管理職が中心となって参観したが、多くの教員が参加できる態勢の充実を図りたい。
- ・集団育成の具体的方策として、ピア・サポート活動の取り組みを推進している。教員対象の研修を企画し、指導できる教員が現在いるが、引き継げる教員の育成が必要となる。基本的な生活習慣の育成を、全教職員で取り組んでおり、その成果として、落ち着いた学校になっている。
- ・清掃指導を通し、子どもの心を育てるために、今年度は、クリーンアップ大作戦を土曜授業として、地域や保護者の力を借り取り組んだ。保護者の参加が少なかったため、啓発していく必要がある。また、クリーンアップ大作戦で学習したことが、努力目標である「自らすすんで掃除をする生徒」の育成に繋げるよう指導の工夫をしていく必要がある。
- ・学校元気アップ地域本部と連携して、重点目標である、「生徒の道徳心、社会性をはぐくむ取り組みを進める」を、ボランティア活動（地域行事への参加、生徒会清掃）や夕陽丘カルチャー教室（日本文化体験学習）、クリーンアップ大作戦を実施した。地域の人材を活用し、生徒に社会の関心を持たせるよう取り組んだ。次年度も、教職員組織と地域本部との連携を強め、教育活動を充実させたい。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標を達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 学力の向上】</p> <p>①言語活動の取り組みを学校全体で取り入れ、平成 27 年度の全国学力・学習状況調査における「普段の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 38%以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>②平成 26 年度末には、校区小学校と校種や教科を越えた連携を図り、指導法について研修し、相互の授業参観を実施する。 (マネジメント改革関連)</p> <p>③テスト前学習に参加する生徒の数を前年度より 2%あげる。 (カリキュラム改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【表現力の育成】 授業で言語活動を活発に取り入れることを目標に、研究授業・研究協議を実施し、表現力の育成に努める。</p> <p>指標 年度中 1 回表現力の育成を目指した校内研修会を実施。</p>	B
<p>取組内容②【小中連携】 校区小学校との連携を強化し、相互の授業参観を実施し、研修を行うことで教科のスキルアップを図る。校種や教科を越えた連携を築く。</p> <p>指標 年度中 1 回小中で相互参観を実施し、研究協議を一緒に行う。 長期休業中に 1 回小中連携の会議を実施する。</p>	B
<p>取組内容③【補充学習の充実】 定期テスト前の放課後を活用し、「テスト前学習」の時間をとり、生徒に呼びかけ実施する。</p> <p>指標 年間 5 回の定期テストごとにテスト前学習を実施する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

①各教科の日々の授業や研究授業において表現力の育成を目標にした工夫された授業を行っていた。

更なる「表現力の育成」に向けた、リテラシーの向上や意見討論の方法等の充実をめざした研究や検証を実施するまでには至っていない。

②年度中に小学校の先生に授業参観に来てもらい、一緒に研究授業に参加することで校種や教科を越えた連携を築くことができた。

年2回の小中連絡会と中学校体験授業を実施することができた。

夏季休業中に第2回小中教職員総会を実施し、連携を強化することができた。

③定期テスト前の放課後すべてにおいてテスト前学習を設定し実施することができた。テスト範囲表等を実施内容や日程を記載し、自主的な参加を呼びかけるなどし、積極的な参加を促した。

次年度への改善点

○ 更なる「表現力の育成」を目標にした、リテラシーの向上や意見討論の方法等の充実をめざした研究や検証の実施。

○ 小中連携を更に強化し、子どもたちを9年間のスパンで育てられるような関係を築いていく。

○ 定期テスト等の午後に授業が無い時の時間を有効に活用し、小中相互参観や研修会などを実施し、更なるスキルアップを図る。

年度目標	達成状況
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <p>①平成 26 年度末の校内調査において遅刻生徒の数を前年度より減少させる。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>②平成 27 年度の全国学力・学習状況調査における「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 93%以上にする。(カリキュラム改革関連)</p> <p>③平成 27 年度の全国学力・学習状況調査における「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 33%以上にする。(ガバナンス改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【生活習慣の確立】</p> <p>学期はじめに集会週間をとり生活リズムを取り戻す。毎朝の風紀当番で風紀委員に遅刻の統計をとらせ、風紀カードを発行させる。</p>	B
<p>指標 月 1 回の遅刻の統計を集計して、風紀通信の形で発行する。担任の先生がクラスに促す。風紀カードに保護者チェック欄を設け、遅刻者、服装違反者の家庭へ知らせる。</p>	
<p>取組内容②【道徳心の育成】</p> <p>ピアサポート、道徳副教材の積極的な活用、福祉体験をはじめとする年間行事の深化充実をはかる。</p>	B
<p>指標 (1) 道徳副教材をはじめ、子どもの実態に即した教材を精選し、各学年、体験活動を学期に 1 回以上実施し、道徳の時間を充実させる。 (2) 学年、クラスの実態に応じてピアサポートの時間をつくる。</p>	
<p>取組内容③【社会性の育成】</p> <p>元気アップ事業との連携、天王寺ジュニアボランティアへの参加など地域とのかかわりを働きかける。</p>	B
<p>指標 生徒会主催で地域の清掃活動に取り組む。 年に 2 回地域の清掃活動を行う。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>遅刻数に関しては全体的にみると随分と減ってきている。本鈴後の登校は特に大きく減っている。風紀委員や生徒会を中心に、朝のあいさつ運動等、大変活発にできている。風紀カードと、風紀だよりを使ってのクラスの呼びかけについては様々である。より効果的なものになるようにしなければならない。ピアサポート、道徳に関して取り組みはしたが、どれだけ継続させて取り組めるかが大切である。</p>

次年度への改善点
<p>遅刻を減らすこと、服装違反を無くすことを目標に担任の先生方の風紀カードの使い方を再確認する必要がある。道徳教材を使った 3 5 時間の実践が言われる中で、これまでの内容の継続と新しい流れの導入をうまく考えていく時期にある。学年、委員会等、他と連携しながら実践していく。 生徒会主催の清掃活動は次年度も続けたい。</p>

年度目標	達成状況
【視点 健康・体力の保持増進】 ①平成 26 年度末の校内アンケートにおける「清掃活動を積極的に取り組んでいる。」の項目について、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答える生徒の割合を 83%以上にする。 (カリキュラム改革関連) ②平成 26 年度末の校内アンケートにおける「体調面での自己管理ができています」の項目について、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答える生徒の割合を 77%以上にする。 (カリキュラム改革関連) ③検診で分かった症状の受診率 85%をめざす。 (カリキュラム改革関連)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【美化環境整備】 毎日の清掃活動と定期的な大掃除及び油引き・地域や保護者の協力・参加型のクリーンアップ大作戦をさらに充実させ、美化意識の啓発を行う。	B
指標 美化委員を活性化させ、清掃点検を行うと共に給食当番係りの中心的な役割を担うよう指導する。	
取組内容②【健康な生活習慣の確立】 毎日の生活の中での手洗いうがいの習慣が身につくよう指導する。	B
指標 給食実施（本年度は 1 年生全員給食）にともない、給食当番も含めた手洗い・うがいの習慣が身につくよう指導する。	
取組内容③【健康に関する現代的課題への対応】 「保健だより」を活用し、病気やケガについての啓発を行う。	B
指標 「保健だより」を毎月発行とインフルエンザ流行時期に適切な調査の実施。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
①美化委員会では、毎月の美化目標を設定し美化意識の向上に努め、黒板拭きクリーナーの清掃を行い、美化点検も実施した。本年度のクリーンアップ大作戦は 10 月 18 日（土）に、地域・保護者の協力を得て実施した。同じ日にワックスがけも行い、文化祭に備えることができた。 ②保健委員会では、毎月の保健目標を設定し健康な生活習慣の確立に努めた。本年度から 1 年生全員給食実施に伴い、1 年生の美化委員を給食委員と兼務させ、給食当番係の中心的な役割を担わせ、給食マナーの向上に努めた。 ③毎月発行の「保健だより」による、病気やケガについての啓発を行うと共に、各学期末の教育健康相談時に、治療勧告を行い受診率の向上に努めた。保健委員会は、インフルエンザ流行時に各教室で保健チェックを実施した。

次年度への改善点
平成 27 年度からは、給食完全実施が 1 年と 2 年の二学年となり、校内体制と給食委員会の立ち上げ（教職員）が最重要課題と考えている。 クリーンアップ大作戦の実施時期及び地域・保護者への協力方法について更なる工夫が必要と考える。

